

# 大江戸蒔蓄噺

## たいこもち (太鼓持) のいた時代

第一回 江戸の幸福力を学ぶ人情噺の会

蒔蓄斎髭丸@ふなき



# たいこもち (太鼓持) とは？

- \* どんなイメージでしょう？
- \* 身近なところでは？

# 身近ではこんな感じ？

～リーマン辞典より～

- ごますりリーマン
- 酒盛りリーマン、お祭りリーマン
- うけうりリーマン
- 気配リーマン
- 散らかりリーマン

- いろんなリーマンがいますね (笑)



# 太鼓持ちとは？

- 遊里の里で、お客に従い、遊興の酒間を助けるもの。
- 職業的幫間の出現は、宝暦年間（1751～63）
  - このころ、最高級遊女の太夫が消滅
  - 結果、芸と春を売ることの分業がおこる
  - 芸のできない遊女が増え、男芸者が生まれる



# 太鼓持ちとは、 何をする人？

お座敷遊びのお助け役。

お酒の間や芸者の間を助け、酒席をと  
りなすのが太鼓持ちのつとめ。

# 太鼓持ちの真髄は？

- お座敷での幫間芸は、出たところ勝負のアドリブで臨機応変の才がなければつとまりません。
- お客より目立ってもいけないし、白けさせてもいけない
- 平場は修羅場といていた
- 三味線、踊り、浄瑠璃ができるとって芸者さんの領分を侵してはいけない。やっても二、三分。幫間の真髄は、修羅場（平場）と間です。  
(悠玄亭玉介)



太鼓持ちを『幫間』  
と書くのは？

間（ま）を

幫ける（助ける）



# 幫間噺とは？

幫間腹、愛宕山、富久など。  
主人公は、一八（いっぱち）、久蔵

みんな、ちょっと、**おまぬけ???**



# 実は、野太鼓（のだいこ）を面白おかしく描写している

- 江戸は、成り立ちからして急ごしらえの政治の街、男性が多く、女性が少なかった。
- 花街吉原もしかり。花魁の掛持ちが常識。
- 旦那が待つ、その間を芸者や太鼓持ちが助けた。
- 吉原の中に入れる太鼓持ちの数は限られていた。
- 吉原に入れない太鼓持ちは、野太鼓と呼ばれた。
- 落語に出てくる太鼓持ちは、この野太鼓が多い。



# 幫間の代表的な人は？

悠玄亭玉介 (1907年~1994年)

三代目桜川善平 (1912年~1995年)

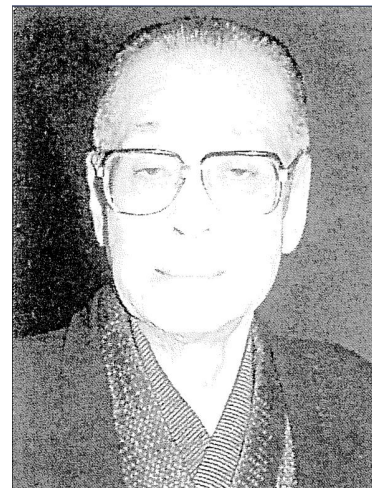
戦前は、東京だけで三百数十人、  
現在は、東京に四人、関西に一人だそうです。

# 悠玄亭玉介師匠 (1907年~1994年)



幫間というのは、字にあるとおり、間が大切です。間がない人は間抜け。  
それに目。話中に目をそらす人はダメ

# 三代目桜川善平師匠 (1912年～1995年)





江戸友禅染物師の  
藤木さんから  
お話をいただきましたしょう。

同じ長屋？にお住まいだった、  
桜川善平師匠のエピソード

# 百年目のポイント

- ぜひ、上司部下の関係、現代にも通じる人情の機微、お感じください。
- 人を育てるということ、人が育つということの本質に気づかされます。
- 待つ勇気、これを養うことに気がつくかもしれません。



これにて、終了でございます。  
ご清聴いただきまして、ありがとうございました。  
心より御礼申し上げます。

蒔蓄斎髭丸